

同窓会報

NO. 41
1995.2

発行——山形県米沢市門東町1丁目1番72号 九里学園同窓会事務局 TEL 0238—22—0091



同窓会主催 記念音楽会「山形由美・福田進一デュオ・リサイタル」1994. 9. 13

学園近況

教諭 長谷川美恵子

同窓生の皆様とお会いする度に、いろいろな立場でご活躍なされていることをお聞きし、とても嬉しく思います。

学校は六年度から世界のデザインナー森英恵の新しい制服になりました。また、七年度からはすてきな夏の制服に変わります。このように高校は、雰囲気的にも明るく活気に満ちています。

新聞にも報じられ、学園を訪れて下さった方は、直接現場をご覧になられてご存知と思いますが、六月から生徒の手による「受け付け業務実習」が行われています。この実習は「生徒全員が視野の広い人間性に富んだ女性として育ててほしい」という願いで始められました。内容は、来客の応接、電話の応対です。朝掃除をして「おはようございます」の挨拶でさわやかに実習の一日が始まります。

また、研究所主催による憲法・論語の他に、三年生を中心にしたエチケット講座が開講されています。慶弔の表書き、おいしいお茶の入れ方、基本的なお花の生け方や手紙の書き方等で、卒業後直接役に立つことです。学んだことで、しっかりした人間として成長してほしいと思っています。また、交換留学生が来校し学園の国際化が益々進んでいます。

同窓生の皆様、今後共学園を御支援下さいますようお願いいたします。

またいつか 娘と一緒に 聴きたい

会場に着くのが時間ギリギリになってしまいました。もうほぼ満席の状態です、やっとの事で後ろの方に席を確保しました。

今年の記念音楽会は、山形由美さんのフルート、福田進一さんのギターによるデュオ・リサイタルでした。この一流奏者による演奏が、米沢に居ながらにして聴けるなんて夢のような話です。

その一本の金管から流れ出る調べは、まるで別世界。雲の上を飛んで歩くような夢心地へと誘いこんでくれました。

プログラムは二部に分かれていて、第一部はクラシック系、「精霊の踊り」や「フルートのための幻想曲」など、そのやわらかな旋律にひきこまれてしまいました。第二部はいろんな国の曲があり、

雲の上へ歩
ゆるやかに
わらわら
かか
旋律



島山みち子 (S46年卒)

私たちにも身近なギターだけの「禁じられた遊び」や、「日本民謡」"こきりこ"による変奏曲"など、とても楽しい演奏に心踊る思いでした。山形さん、福田さんの自然で分かり易い曲や、作曲家や演奏法の説明がなお一層その音楽を引き立ててくれていたように思いました。

日々の忙しさに追われ、純粋な感動を覚える事が少なくなってしまう。最近の生活の中で、本当にすばらしい時を与えて戴きました事に、深く感謝致します。娘も九里学園にお世話になり、同じ音楽が聴けたという事で親子の会話もはずみました。娘の卒業後いつの日か一緒に記念音楽会をまた聴きに出掛ける時が来る事を期待して、一人胸弾ませております。

この催しが、これからずっと続きますように、そして誰もが気軽に行ける音楽会として定着していきますように願っております。

往年の 美少女 HANAE MORI を着る

6.26

同窓会総会

沼部 令子

(S46年卒)

平成六年度の同窓会総会は、六月二十六日、ホテルサンルートにて参加者百五十余人を集め、開催されました。この会を運営する当番学年は、卒業年末尾六と七がつく学年です。

総会では、副会長に遠藤文子さん(S23年卒)の就任が決まりました。また、九十五年を記念して取り組む卒業生名簿の作成の件では、多くの意見が出され、意義ある総会になりました。

引き続き、山形放送のアナウンサー羽賀道也氏から、テレビの裏話や氏のアナウンサー人生の紆余曲折を語っていただき、改めて正しく報道することの大変さを知りました。

「一味違った同窓会を」と考えあぐねての懇親会では、益田まり子さん(S46年卒)によるマジックショーと、新制服のファッションショーを行いました。六〇歳のおばさまが森英恵の心と九里の新たな精神を着用。抱腹絶倒の一幕でした。

最後に歌う校歌の大合唱では、感激のあまり涙する同窓生もおられ、この会を企画した実行委員として嬉しい限りでした。



九里祭 参加 展示

羽生田喜美子 (S 42 年卒)

生徒達との交流の場にしたい



「九里祭」へ二回目の参加をしましたのは、八月二十八日の暑い日でした。予定が変更されたこともあって、急ぎ足の準備でしたが、着物・陶器・七宝焼き・パッチワーク・皮細工・書・生花等々を展示。バザー用にと一輪さしも作成し、部屋のコーナーに揃えました。若い歓声の中、たおやかな香りのする一室が出来上がりました。初の試みとして、見いらした方と生徒達と一緒に「ティッシュケース」を作る触れ合いコーナーを設けました。作り方を説明しながら針を運びながら、たわいない話をして、とても楽しいひとときを過ごせたと思います。飯豊支部の皆さんも沢山見に来て下さいました。となり設けたテイルームには手作りの

品が並び、お話の花が咲いたようです。反省としては、参加者が少ない、宣伝が足りない、展示品のみでなくセミナーも開きたい、などこれから課題は多いのですが、九里祭への参加は、やがて同窓会へ入会する在校生との触れ合いの場として発展して欲しいと思っています。

若々しい生徒達とどんなハローモニーが奏でられるのか、今後が楽しみです。

会場全体が

再会の感激に満ちる

関東支部の集い

6/11

今回の実行委員長

桜井 トシ子さんに聞きました

(S 31 年卒)

Q 1 この集いは毎年行われているのですか？

一年おきに行っています。次回は平成 8 年の 6 月になります。

Q 2 毎回何月と決まっているのですか？

毎回 6 月の第二土曜日と決まっています。場所は一番集まりやすいという理由で、上野の「精養軒」にここ数年はなっています。

Q 3 今年の参加者はどのぐらいで、何か催し物がありましたか？

母校の先生方や、同窓生にも多数参加していただき、総数で 171 名でした。第二部では落語家の三遊亭扇馬さんに司会を手伝っていただきました。高森務先生の腹話術などもありました。

この集いは、なつかしい人に会える日なので、会場すべてが再会の感激に満ち、参会者全員時間を忘れる程でした。

Q 4 さぞかし、準備が大変だったでしょうね。

私は何も分からなかったものですから、迷惑をかけました。実行委員の方々の努力の賜です。準備は前年の 12 月から始まります。集いへの期待で準備会はむしろ楽しかったと思っています。

Q 5 この会に参加したいが、案内がなかった場合、どこに申し込みがいいですか？

分かる範囲で最大限の案内を出し、新聞(朝日・読売)広告も出しています。連絡の届かない人もたくさんおられると思いますがこの場合は、母校事務局(0238-22-0091)に問い合わせして下さい。

Q 6 桜井さんの高校時代で、思い出があつたらお聞かせ下さい。

土曜日は早弁をして映画館へまっしぐらでした。そのお金は、参考書を買う名目で父からもらいました。後日、妹にバラされたことがあります。





塩野目 時 雄

小春の退職金

結婚して三十一年。若かりし頃のことが鮮明に浮かんでくる。それは私が二十二、妻が二十一の歳のことだった。多くの方から「そんなに若くて結婚したの」とよく言われる。そう、私は若くして塩野目家の大事な婿様として選ばれたのである。さて、この結婚を境に妻の苦勞が始まったのである。将来にいろんな夢や沢山のプランもあったろうに、すべてを投げ出し、ただひたすら家事・育児に専念することになるのである。やがてソロバン塾を切り盛りし、家族を支える姿は、時として涙ぐましい程であったと記憶している。「愚痴も言わずに女房の小春」というところか――。

塩野目寿美子 御夫妻

(S 36年卒)



むしろ私も努力したけれど妻の比ではない。最近、妻には逆境に立たされると却っていろんな発想が出る特技があるのではないかと思うようになった。この特技は私の人生をしばしば和ませてくれた。常に目立たない動作で活動しているようで、最後にキチッと自分の存在を感じさせるのである。この能力も見上げたものである。これが九里精神かと思わされること度々である。

最近孫も生まれ、その子守に追われているが、それでも町内の活動や種々のボランティアに参加し、若い頃の夢を取り戻すかのように多忙な毎日を送っている。

元気でやっていけるうちは大いに頑張つて欲しい、と心から願っている。

妻に対し私は何もしてやれなかつたけれど、自分の退職金だけはすべて妻に献上しようと考えている。

これで、妻の努力に報いることが出来れば幸せなことである。

和やかに盛大に 飯豊支部発足

長岡 ツネ (S 20年卒)



平成六年七月には、第二回総会を行いました。今年には本校から新しくデザインされた制服をお借りし、会員がモデルになってファッションショーをしました。五十代とは思えない若い女学生が生まれました。更に米寿を迎えられたとは思えない若さの高橋ハルさんが出席されたので、会員は高橋さんにあやかう、この会も長生き出来るよう皆で頑張ろうと誓い合い、支部の行事として、九里祭に出席することになりました。

初めて見る九里祭、学校も、催し物も戦時中の私達の時代と比べ、素晴らしい発展で驚きました。

平成五年七月二十五日、待望の支部が発会しました。校長先生と事務局の先生、更に旧職員で本町出身の小松先生を来賓にお迎えして、校長先生から母校の現況をお聞きし、懐かしい母校の姿を思い浮かべました。会員六十一名は、若き日に戻り大張り切り。歌に踊りに、マイクは次から次へタッチされて、和やかな中にも盛大な発会でした。

職場訪問



YBCラジオレポーター
高橋朗子^{あき}さん
(H4年卒)

「見えるラジオ」が目標です



「置賜の高橋さん」という中央アナウンサーの呼びかけで実況中継は始まります。YBCのラジオ番組「ハッピーロード」の時間です。ここで、はきはきとレポートをしているのが高橋朗子^{あき}さんです。この日(一月十三日)は、木地玩具の展示会場からの中継でした。玩具を作っ

おられる方へマイクを向け、展示で一番知ってもらいたいところをぐっと問いかけていきます。

高橋さんは、我母校、米沢女子高等学校を平成四年に卒業。短大を経て平成六年四月にYBCのラジオレポーターとしてスタートされました。高校時代は、ブロック長として活躍。文化祭で一〇メートルの壁画「見返り美人図」を紙ねんどで作ったことが一番の思い出だそうです。

「放送が終わっても、マイクを持った手に跡がしばらく残るんです」うまく伝わったかどうか、という不安と緊張が続いているためだそうです。

高橋さんの日常は、週三日間が仕込みの日になっています。レポートする予定の現場を必ず見に行き、分からないところがあれば図書館等で下調べをします。この仕込みの深さでレポートが決まってくるそうです。「見えるラジオ」が目標なので、郷土料理のときなどは、どう伝えるかに心をくたく。一番困ったのはお年寄りの言葉(方言)が分からなかったときだそうです。

方言はその土地のぬくもりを伝えるので、おろそかには出来ないのです。正月の番組では伝統行事のレポートが多かったため、浅学を思い知らされたという。そして、季節の移り変わりをどう描写し伝えるかが、これからの課題だという。

仕事を通して得たものは、季

節の変化に敏感になったことで、「雪の結晶がこんなにも美しかったか」と思ったそうです。そして何よりも広い分野にわたり、様々な人から知識をいただいたことが私の宝です、という高橋さん。取材した私達には近年まれにみるしっかりした女性にうっとりしました。

話題が将来のことに及び、「スケールの大きな恋がしたいですか?」とたずねたら高橋さんは「はい!!」と力強くうなずいて顔をほころばせました。

人生視界よし、朗らかにゆっくり春よこい。

(S42年卒 大久保記)



今回は
雪の校舎です

桜の校舎のカードもあります
(1枚 1,000円)

お求めは 事務局まで
☎0238-22-0091

新しいテレフォンカードができました。

同窓会員名簿の作成に

御協力下さい

同窓会員の皆様、何時も同窓会の行事や事業に温かい御支援と御協力をいただきまして、心からお礼申し上げます。

母校も来年、平成八年度は、創立九十五周年を迎えますので、記念として同窓会名簿を作成することになりました。母校の歴史と伝統の深さを確認し、更に同窓会の絆を一層強固なものにしようとして、準備を致しております。会員お一人ひとりに調査の葉書を差し上げますので、必要な箇所をお書きの上、最寄りのポストに入れて下さるようお願い致します。

来年五月一日発行の予定ですが、御予約もお受け致しておりますので、お買いとめいただき、青春時代を回顧して下さいる事も、楽しい一時を持つことになると思います。また、同窓会の経済的な面も潤うこととなりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。更に、広告の掲載等についてもお力添えいただければ幸いに存じます。皆様のご協力で、より充実した名簿が出来ますよう、どうぞお願い致します。

同窓会長 竹田 カツ

皆様へ お願い いたします

- 四月から名簿作成に取りかかります。調査カードが届きましたら、現住所・注文申込等を御記入の上、投函して下さい。
- 卒業時の住所へ送付の場合もあります。御家族・御親戚の情報と共に御協力下さいますようお願いいたします。
- クラス会等で、最新の名簿をお持ちの方、どうぞ学校の事務局へ御連絡下さい。
- 名簿の内容は、卒業年・組の順です。うしろに五十音順の索引が付き、大変便利に編集される予定です。
- 名簿の発行は、平成8年5月です。価格は送料・税込みで3,600円になります。購入方法は、前納予約制になります。申込み下さい。

写真撮るのを忘れる

S44年卒 8組 菅野正子

クラス会

平成六年十一月三日「地元にいる人達でたまに集まってみよう」ということになり、久々に会を持ちました。連絡もままならず、それでも担任の長谷川美恵子先生を交え十四名が集いました。地元においても卒業以来初めて逢うという人もいて、取りあえず自己紹介となり、当時のニックネームでのユニークな紹介には、涙を流して笑い合い、一瞬にして二十七年前の女学生に戻りました。食べることなどすっかり忘れ、おしゃべりの方が優先し、あつという間の三時間でした。気付いた時には誰かが写真を撮ることもすら忘れ、証拠なしのクラス会となつてしまいました。

校舎のぬくもりに感涙

S37年卒 家2組 中川とも



私達は、毎年十月最後の日曜日をクラス会の日と定めて集まっています。今年の十月三十日は、久しぶりに母校の門をくぐり、懐かしい教室を見せていただきました。昔と変わらぬ木のぬくもりに思わず目頭が熱くなりました。黒金校長先生の学校葬とみ先生の胸像除幕式のことなど、当時の様子が走馬灯のように頭をめぐりました。卒業して三十二年になりましたが、それすら数えるひまもない忙しい日々であったことも述懐して、楽しいクラス会になりました。

編集 後記

今回から、母校の様子を中心に編集した一枚が加わることになりました。できるだけ多くの同窓生に届きたいと願っています。御支援と御協力をお願いいたします。